

ἀγιάζω

ハギアゾー

知っておきたいキリスト教のことば (5)

崇める あがめる

「崇める」という言葉が漢字もそのままに新約聖書に出てくるのは、新共同訳聖書に限ってみると、イエス様が主の祈りを教えられたマタイとルカの二か所だけです。

広辞苑を見ますと、「崇める」には、「尊いものとして扱う、寵愛する」といった意味があります。しかし聖書の中では、「聖別すること、取り分けること、聖とみなすこと」という意味を持ちます。

そもそも「崇める(ハギアゾー)」という言葉は、「聖(ハギオス)」という名詞の動詞形なので、「聖いとされる、聖なるものとされる」という意味を持ちます。主の祈りでも、多くのプロテスタント教会では「御名をあがめさせたまえ」ですが、聖公会やカトリックでは、「み名が聖とされますように」となっています。また「ハギアゾー」は新約の中で他に26回使われているのですが、新共同訳聖書はそのほとんどの箇所を「聖なる」と訳しています。

神さまを、自分たちと分離された近づくことの許されない存在と考えてきた旧約から、新約においてはキリストの十字架によってわたしたちも聖徒とされ、神さまはわたしたちと共におられる存在になりました。ですから、「御名が崇められますように」とは、神さまがすべての人にとって聖なるお方とされる世の中になっていきますように、と考えることができるのです。

最後に、新共同訳聖書には「あがめる」とかな表記されている箇所もあります。そこでは「ハギアゾー」とは違ったギリシア語が用いられています。たとえばマリアの賛歌(ルカ 1:47)では「メガリュノー」という語が使われていますが、その本来の意味は「称賛する」、羊飼いの礼拝(ルカ 2:20)では「ドクサゾー」で「栄光を帰す」、さらにマタイ 15:9 では「セボー」、「礼拝する」が、いずれも「あがめる」と訳されています。それぞれのニュアンスの違いをくみ取っていくと、聖書がますます生き生きと語りかけてくれるかもしれません。

次回は「悪霊」です。お楽しみに。



「ゲツセマネの祈り」

アンドレア・マンテーニャ (1431-1506)

だから、こう祈りなさい。『天におられるわたしたちの父よ、御名が崇められますように。』

(マタイによる福音書 6章9節)

